

会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

模型飛行機趣味

上川北部医師会
名寄保健所

さいとう たいいち
齋藤 泰一

年端も行かぬ子供の頃より模型飛行機が好きで、還暦が目の前に迫った今も変わらない。私の模型飛行機人生を振り返って、思い出に強く残っているエピソードを書いてみたい。

1. タイガーロケッティA飛びすぎの件

小学5年生の頃、当時模型飛行機用固体ロケットエンジン「タイガーロケッティA」なるものが販売されていた。太めのウイナーソーセージを長さ2～3cmに切ったような円柱状の固体燃料を、アルミのケースに挿入し、導火線に着火すると20秒間くらい燃焼ガスがノズルから勢よく噴射してくる。その反動を推力とするまさしく固体ロケットエンジンそのものであった。これをバルサ（南米産の比重の小さな木材。軽いので模型飛行機に頻用される）で作った模型飛行機のおなかに装着し、飛ばすわけであるが、私の場合飛ばした場所が野球場1.5面くらいの広さだった。初体験なのでどれくらい飛ぶのかよくわかっていなかった。手を離れた機体はゆっくりと旋回しながら、自分の想像していたよりも遙かに高い高度まで上昇した。20秒間動力が稼働している模型飛行機というのは、うまく調整がとれていると相当の高度を稼ぐものだ、というのはずっと大人になってから理解した話。結局小5の私の想像を遙かに超える高度に達した機体は、エンジンの燃焼が終わった後緩やかに滑空に移行し、遙か彼方の住宅街に没してしまった。姉と二人で怪しい捜索隊となりあちこち他人の庭など探し回ったが結局見つからずじまいであった。せっかく買ったタイガーロケッティAもその一回の飛行で無くしてしまったのであった。模型飛行機は飛びすぎると失うという真理を身をもって体験した小5の秋であった。

2. ラジコンエンジン指ぶちぎり体験

40代の半ば、富良野に勤務していたとき、ラジコンのエンジン飛行機に没頭していた。ラジコンフライヤー歴すでに10年以上、手際よくエンジンをかけ、キャブレターを調整しようとしてエンジンに手を伸ばした瞬間、左手の人差し指から薬指まで3本を回転するプロペラで激しくはじかれた。どっとあふれ出す血。全くの注意不足だった。指は動くので腱は断裂していないようだった。土曜日だったが富良野協会病院の整形外科の先生を煩わせて10針くらい縫っていただいた。カルテを盗み見ると「ラジコンのヘリコプターで指をけがしたとのこと」となっており、しかし「ヘリコプターでなく飛行機です」と言う元気もなく、不注意を反省するばかりであった。抜糸は先生の許可を得て自分でしてしまった。やはり慣れは恐ろしいもの、初心忘れるべからずと自戒することしきりであった。

3. 名刺も飛ぶってほんと？

長年模型飛行機趣味に興じていると、変なものも飛ばしてみたくなったりする。飛行機は模型も実物も主翼に発生する揚力で浮かぶ。縦横左右の安定がとれば名刺でも滑空できる、といわれている。二宮康明さんという紙飛行機の大家がそう著書に書いている。あるとき、ほんとにそうか試したくなった。名刺一枚を折りもせず切りもせず、滑空させられるか？ 飛行機には普通縦の釣り合いをとるために水平尾翼が付いている。名刺一枚ではそれができないから、一種の無尾翼機ということになる。無尾翼機は尾翼なしで縦の安定を得るために、主翼の断面をS字状に湾曲させるとうまくいくということになっている。かつ、重心の位置が重要で、名刺の前縁から約25%の位置に重心を持つてくる。そのために、ゼムクリップを前縁中央に取り付けて調節する。これで用意はできた。あとは風のない室内でそっと前へ押し出すように飛ばしてみる。何度か調整を繰り返すと、やや不安定に左右に揺れながらも、立派に滑空した！名刺も調整次第で飛ぶことを体験した。なにごと調整が大切、と一人で納得したことであった。

模型飛行機はときにおもちゃの飛行機とか言われたりしますが、それはどうだろう。飛ぶ原理は実物と何ら変わらない。違うのは大きさである。大きさが違えば、気流の速度や空気の粘度や翼のサイズから計算されるレイノルズ数という指標が大きく異なり、これが小さいと（翼のサイズや滑空速度が小さいと）翼としての効率が悪くなる、という。つまり模型飛行機は、実物に比べて効率のよくない翼であるが、同じ原理で飛んでいるということである。こちら辺が面白くてたまらないのかもしれない。死ぬまで模型飛行機趣味は捨てられないような気がしている。